

## リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況

## 愛知県資料

## 愛知県の取組状況

## 1 イベントの実施（平成 28 年度）

- ①リニモ沿線ウォーキング(※)【通年(5～6月、10～11月、2～3月)】
- 沿線地域の自然や名所、観光施設等の魅力に触れてもらうリニモ沿線ウォーキングを3シーズンにわたり開催。(計11回開催予定)
- ②わくわく体験リニモツアーズ2016(※)【夏休み期間 計18日間】
- 夏休み期間中、小学生と保護者を対象に、リニモ体験乗車と沿線の様々な施設での体験講座等を実施し、社会学習等の機会を提供。
- ③リニモ夏休み親子教室【8月5日(金)、6日(土)、16日(火)、17日(水)】
- 夏休み期間中、小学生と保護者を対象に、リニモ体験乗車と愛・地球博記念公園を会場とした染物やローブワーク術の体験教室を実施。
- ④「manaca」で来てね！リニモ沿線魅力発信キャンペーン(※)【4月29日(金)】
- リニモで交通系ICカードが利用可能となったことを受け、より広域からリニモ沿線にお越しいただくよう、イオンモール名古屋みなとでリニモと沿線の魅力を発信するイベントを開催。
- ⑤ワールドサムライサミット2016【11月19日(土)、20日(日)】
- 武将観光イベントを愛・地球博記念公園で開催し、観光誘客とともに地域のにぎわい創出を図る。リニモ沿線ウォーキングのゴールとし連携。
- ⑥インGRESイベント(※)【12月4日(日)】
- 愛知県立大学の学生グループが、スマートフォン用アプリゲーム「インGRES」を活用してリニモ沿線の魅力に触れていただくイベントを開催。
- ⑦あいちポップカルチャーフェスティバル 2017【1月7日(土)】
- ポップカルチャーをテーマとしたイベントを愛・地球博記念公園で開催し、地域の賑わい創出を図る。
- ※:沿線市共同事業

## 2 その他沿線施設における取り組み

- ①「愛・地球博記念公園」【H27年度来場者数：1,992,300人※H20年度：1,210,600人】
- 愛知万博理念継承事業として、自主イベント「モリコロパーク秋まつり・春まつり」を開催するほか、各種持ち込みイベントの開催支援を実施。リニモ利用による来園の呼びかけ。
- ②「愛知県陶磁美術館」【H27年度来場者数：92,045人※H20年度：70,340人】
- 常設展や年間5本の企画展・特別企画展の開催や作陶体験施設「陶芸館」の運営を始め、奇数月第3日曜日の「ふれあい陶芸体験日」等のイベントを開催。
  - ※ リニモ一日乗車券の持参により、企画展・特別企画展観覧料金が2割引となる。
- ③「あいち産業科学技術総合センター」【H27年度見学者数：3,078人 ※H28.06までの累計：26,681人】
- 各種講演会、科学技術教室、一般見学会などを開催。
- ④「愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)」【H27年度来場者数：395,477人 ※H20年度：406,949人】
- リニモの歴史や仕組みを学べるリニモコーナーを常設設置。

- ⑤「愛知県農業総合試験場」
- 研究成果を県民の皆様に紹介する「農業総合試験場公開デー」を開催(11月5日(土)予定)。
- ⑥「あいち海上の森センター」【H27年度海上の森来場者数：108,532人 ※H20年度：142,040人】
- 県民参加の各種体験事業を開催(※H27年度：15回)
  - 愛知万博10周年記念 海上の森体験ツアーを開催(※H27年度：3回)
- ⑦「愛知県立大学・愛知県立芸術大学」
- 一般向けの公開講座、芸術講座等を開催する他、各種展覧会・演奏会やオープンキャンパスを実施。

◎ 上記イベント・施設等の一体的な広報を行うため、沿線施設を紹介する「リニモ沿線マップ」や沿線で開催されるイベント等を紹介する「リニモ沿線イベントガイド」を作成し情報提供を行っている。

## 3 ハード面の取り組み

## (1) 知の拠点あいち

## ア 事業及び施設の概要

- 付加価値の高いモノづくり技術を支援するため、最先端の研究開発環境を備えた拠点を整備。モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT、バイオも融合した研究プロジェクトを展開し、革新的な製造システム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指す。

## イ 既整備施設

## ①あいち産業科学技術総合センター

【供用開始：平成24年2月14日(火)、運営：愛知県】

- 大学の研究シーズを企業の事業化につなげる産・学・行政の共同研究プロジェクトを実施。
- 技術相談や、高度かつ汎用的な計測分析機器を用いた依頼試験、試作品の作製・評価などにより、企業の新技術・新製品開発への取組を支援。



## ②あいちシンクロトロン光センター

【供用開始：平成25年3月22日(金)、運営：(公財)科学技術交流財団】

- 分子や原子レベルで物質の組成等を解析できる最先端の計測分析施設。産業利用を主目的としており、産業利用コーディネーターや、専任のビームライン技術者を配置して企業の利用をサポート。

## ③新エネルギー実証研究エリア

【供用開始：平成28年3月28日(月)、運営：愛知県】

- 新エネルギー関連技術の実用化を促進するため、実証研究の場を提供するなど、企業の取組を支援。

## (2) 愛・地球博記念公園

### ア 事業及び施設の概要

- 愛知万博の理念と成果を継承・発展させる新たな公園を目指し、県民参加や多様な交流の機会を創出する施設整備を進めている。また、防災面では愛知県地域防災計画において県内唯一の中核広域防災活動拠点に位置付けられており、全県に及ぶ災害や大都市の災害発生時の応援部隊や救援物資等の集結・集積活動拠点として重要な役割を担っている。

### イ 近年の整備施設<平成26.27年度>

- <平成26年度>防災備蓄倉庫(1棟)、屋外便所改修(2棟)
- <平成27年度>野外ステージ、公園西駅ロゲート
- ※ 全体計画面積194.2haのうち149.8ha(約77%)を既供用中(H28.4.1現在)

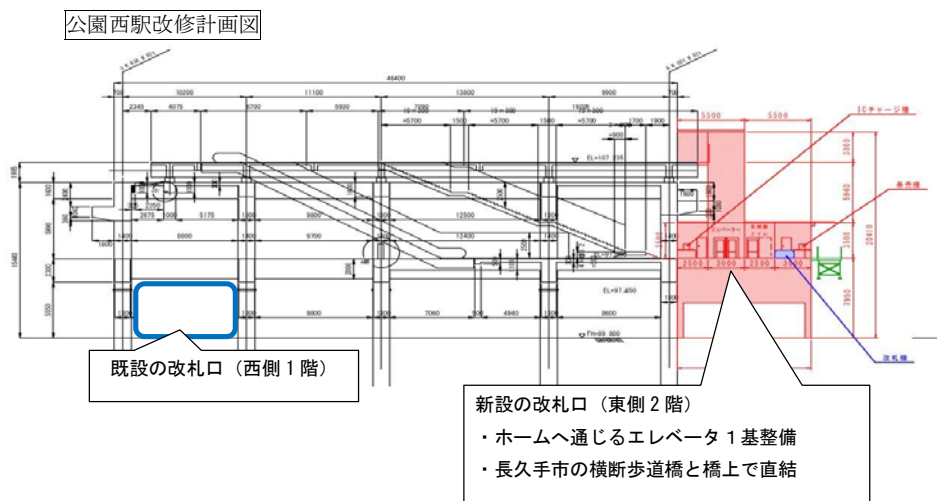
### ウ 今年度の整備施設

- あいちサトラボの内「森のエリア」の整備を引き続き行う。また、キャンプ場の整備を進め、園路の一部供用を目指す。

## (3) 公園西駅

### ア 概要

- 公園西駅周辺では、長久手市の土地区画整理事業を始めとした宅地開発や大型輸入家具専門店の出店などにより、今後、公園西駅におけるリノモ利用者の増加が見込まれることから、リノモ利用者の利便性向上やリノモ沿線地域の発展に繋がるよう、駅の東側に新たな改札口を整備する。  
(整備期間 平成28年6月～平成29年3月(予定))



## イ 関連事業

- 長久手市:横断歩道橋、横断歩道橋と改札口の連絡
- 愛知高速交通㈱:ICカード対応の改札機、チャージ機、券売機、トイレ設備等

## 4 その他の取り組み

### (1) 「パーク&ライド駐車場」などの運営

#### ア 目的

- 公共交通の利用促進と愛知万博の理念である「環境」活動の推進を図る観点から、リノモへの通勤・通学転換対策を実施することによりリノモ沿線の公共交通機関の利用を促進する。

#### イ 実施内容

##### ①パーク&ライド駐車場の運営

- 愛・地球博記念公園駅北側:306台分
- リノモ沿線に大型商業施設が開業することにより、駐車場の潜在的利用者が増加するため、平成28年8月に駐車場60台分の拡張を実施。

##### ②リノモ沿線レンタサイクル

- 通勤・通学者及び沿線観光・レジャー目的でのリノモ利用者を対象に、自転車を無料貸し出し(合計70台)。

- ※ 杖ヶ池公園駅近く自転車ジョイ長久手店にて貸し出し。  
通勤・通学利用は、平均貸出回数43.4台/日(平成28年8月末実績)、  
観光・レジャー利用は、4月～8月末までで延べ104台の貸出実績

#### ウ 今後の予定

- 利用拡大に向け、引き続き啓発活動などを行う。

## (2) リノモ沿線地域における渋滞問題への対応

### ア 概要

- リノモ沿線地域においては、これまでもモリコロパークでの大イベント開催時に周辺道路が渋滞し問題となっているが、大規模商業事業者の出店等により、さらなる交通渋滞の発生が懸念される。
- そこで、関係機関が一体となって対処するため、リノモ沿線活性化ワーキンググループにおいて、平成26年1月から県建設部門を含めた関係者間で、リノモ沿線地域の渋滞対策について情報の共有及び対応の検討を開始した。(これまでに合計5回会議を開催)

### イ 今後の取り組み予定

- 関係機関で実現可能な対応を検討し、実施に向けた調整を行う。